

長崎港・佐世保港の 日本海側拠点港の形成に向けた計画書 ～「新アジア軸」の構築を目指して～

【外航クルーズ(背後観光地)機能】

長崎港



佐世保港



長崎港港湾管理者(長崎県)・佐世保港港湾管理者(佐世保市)

背後観光地のクルーズ拠点機能の充実

背景

- 長崎県は、長崎港に10万総トン級の客船専用岸壁を有し、多くのクルーズ船が寄港する国際観光県
- 佐世保港は3万総トン級客船専用岸壁を有し、2014年春供用を目標に5万総トン級岸壁を整備中
- 近年中国、韓国の経済発展により東アジアクルーズが急成長し、多くのクルーズ客船が日本に寄港
- 2020年には、アジア太平洋地区のクルーズ人口は、500万人に達すると予測

課題

- 今後も増加が見込まれる東アジアクルーズに対し、クルーズ客船を呼び込むためのさらなるソフト対策が必要(長崎港)
- CIQ機能を備えた国際観光船専用のバースが1箇所しかなく、バッティングの際はキャンセル(長崎港)
- 対象船舶を超えるクルーズ船は貨物用岸壁にて対応(佐世保港)



長崎港



佐世保港

今後の定点クルーズ戦略

- 港と観光地のさらなる情報発信による「誘致活動」を強化する
- クルーズ需要の拡大を県内観光につなげるため、県内の複数バース化を行う
- 以上のソフト対策とハード整備により、アジアを代表するクルーズ拠点としての地位を確立する

外航クルーズの旅客の獲得

新成長戦略への寄与

計画の目的

◆“九州西岸エリア”が、東アジアクルーズにおける寄港地として多くのクルーズ船と国際観光客の支持を得ることにより、当地域、ひいては日本海側地域の経済発展に貢献する。

◆東アジアに近い地理的条件と国内トップクラスのCIQ機能により、ファーストポート・ラストポートに利用されている。

◆クルーズ専用バス及びターミナル機能を更に強化して我が国の門戸を広げ、よりスムーズな訪問を可能にする。

◆より多くのクルーズ船が日本へ入りやすくなり、“九州西岸エリア”及び日本海側の新たなクルーズ開発が期待される。

◆“九州西岸エリア”が日本の玄関口となり、多くのクルーズ船を日本海側へ導く。

◆ 背後観光地のクルーズ拠点としての目標

【長崎港】 ◆2025年の目標:年間寄港隻数 55隻 【佐世保港】◆2025年の目標:年間寄港隻数 29隻

【長崎港】

🌐2025年の目標

◆2010年までの5カ年間のクルーズ船(定点クルーズを除く)平均寄港回数32回に、今後1.5隻/年ずつ増やすことを目標とし、2025年に**55隻**を目指す。

◆定点クルーズ(52隻/年)と併せて**107隻**の寄港を目指す。



【佐世保港】

🌐2025年の目標

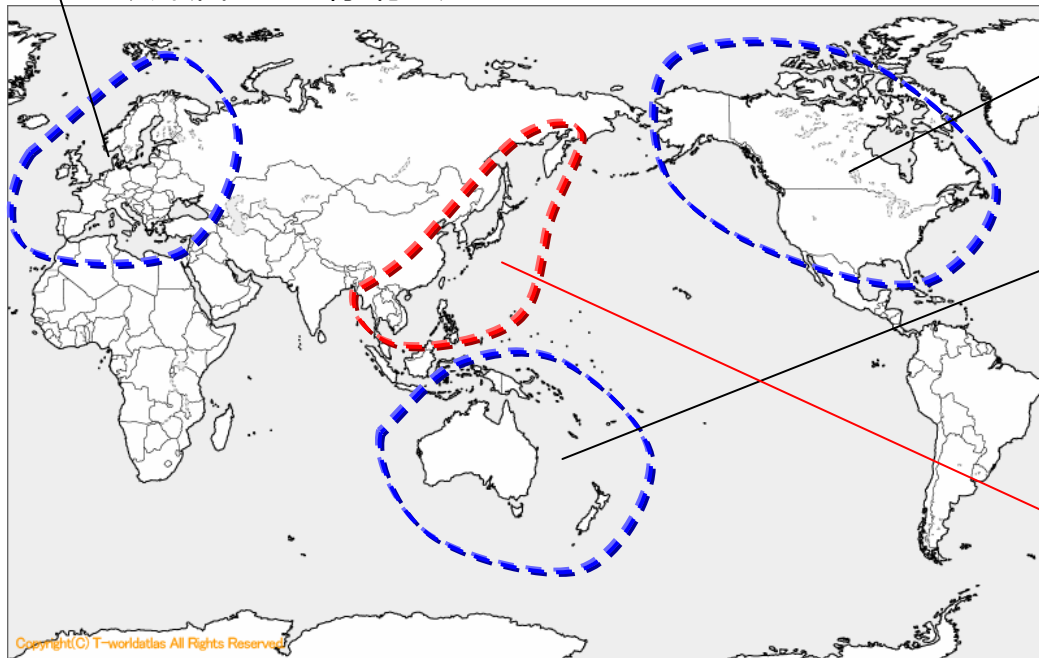
◆ヒアリングやクルーズ市場の動向より、2025年までに**29隻**寄港を目指す。



◆ 世界のクルーズ人口の現状と予測

2009年に490万人に拡大(北米に次ぐ大市場)

欧州(圏内人口約5億人)



世界のクルーズ人口(予測)

1,800万人(2007年) → 2,160万人(2013年)

2006年より1,000万人で横ばい(世界最大の市場)

北米(圏内人口約3億人)

2009年～2010年で11%の伸び 2020年には100万人

オセアニア(圏内人口約0.2億人)

中国を中心に急成長する市場

アジア(圏内人口約30億人)

アジア・太平洋地区のクルーズ人口

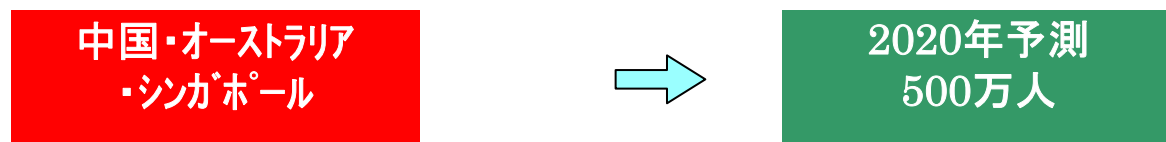
2005年実績で107万人

2010年予測で150万人 → しかし実際は2009年に150万人を突破 ⇒ 予想以上の伸び

上記を踏まえ、2020年の予測は500万人(欧州並みの市場)

◆ 東アジアクルーズの急成長

- ◆ 急成長を見せる東アジアクルーズは、今後も増加する傾向。
- ◆ 近隣諸国の港湾では、クルーズ船専用バース等の拡張が進められている。
- ◆ アジア・太平洋地区のクルーズ人口
2005年に107万人の実績だったことから2010年を150万人と予測していたが、実際は1年早く2009年に150万人を達成。



“Analysis of Global Cruise Market”(Koncept Analytics,2010)より

- ◆ クルーズ船の増加及び大型化に対応した専用バースなど、多くの国際観光客を受入れる能力を持った、拠点となる港湾の機能強化が不可欠である。

クルーズ拠点としての優位性 長崎港・佐世保港

◆ 国際交流の歴史

- 長崎は、1571年の開港以来、鎖国時代～昭和において、我が国の国際ゲートウェイとして大きな役割を果たした。
- クルーズ船寄港の歴史も古く、1958年のカロニア号の長崎初寄港以来、毎年数多くのクルーズ船が寄港する日本を代表する国際観光県となっている。



1958年に寄港したカロニア号

◆ 背後地の観光の状況

- 背後には、世界遺産候補(教会群とキリスト教関連遺産九州・山口の産業遺産群等)が集中
- 「雲仙」「西海」の2つの国立公園や壱岐・対馬・五島の周辺離島など、観光資源が豊富



(大浦天主堂)



(佐世保 九十九島)



(旧グラバー住宅)

◆ クルーズ拠点としての優位性

- ワールドクルーズなど、一時寄港の国際ゲートウェイとして適した位置
- 日本初の10万総トン級対応のクルーズ専用バース
- インフォメーション機能が充実したクルーズ専用ターミナル
- クルーズ専用バースから近く、魅力的な背後観光地



大型クルーズ船
(QM2:154,000総トン)

クルーズ拠点としての優位性 長崎港・佐世保港

観光客の多様なニーズを満たす観光資源が集積したエリア

平戸

- ・平戸城、教会と寺院
- ・平戸牛や魚介のグルメ



三川内・有田・伊万里・波佐見

- ・有田焼、伊万里焼等の美術品
- ・街並み
- ・グルメ



武雄・嬉野

- ・温泉(美肌の湯)



ハウステンボス

- ・本県最大の観光施設



© ハウステンボス/J-13984

西海国立公園

- ・九十九島
- ・グルメ(牡蠣等)
- ・カヤック,ヨット,ダイビング等)
- ・動物園、水族館、遊覧船



長崎港・佐世保港

中心市街地

- ・まちなか観光
長崎(グラバー園,出島,眼鏡橋,平和公園等)
佐世保(三浦町教会,外国人バー,旧海軍施設等)
- ・イベント(長崎くんち、佐世保よさこい祭り)
- ・グルメ(長崎ちゃんぽん、佐世保バーガー等)

島原

- ・日本文化(島原城、武家屋敷)



島原城



武家屋敷跡

長崎の教会群とキリスト教関連遺産

- ・H19年1月世界遺産暫定リスト入り



大浦天主堂



黒島教会



26聖人殉教の地



五島列島 旧野首教会

九州・山口の近代化産業遺産群

- ・21年12月暫定リスト入り



軍艦島



小菅修船場跡

雲仙国立公園

- ・普賢岳
- ・温泉(温泉巡り)



雲仙 普賢岳

計画の具体的な内容

長崎港

より多くのクルーズ船と国際観光客を誘致し、わが国の経済発展に寄与するため、長崎港において以下の機能強化を図る。

- ◆国際競争力を高めるための「クルーズ船専用バース」の複数バース化と「国際ターミナルビル」の拡張(ハード)
- ◆港と観光地のさらなる情報発信による「誘致活動」の強化(ソフト)
- ◆国際観光客の満足度向上のための「おもてなし体制」の強化(ソフト)



マイアミ・コンベンションでのブース対応



船内での歓迎アトラクション



複数バース化・ターミナルビル拡張

長崎港

計画の具体的な内容

佐世保港

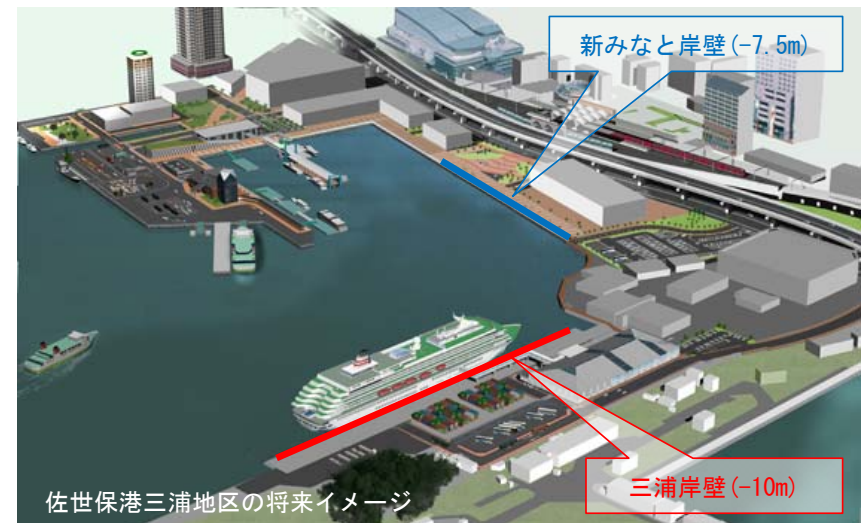
より多くのクルーズ船と国際観光客を誘致し、わが国の経済発展に寄与するため、佐世保港において以下の機能強化を図る。

- 1) 佐世保～釜山航路の開設と外航クルーズ船の受け入れのための三浦地区多目的国際ターミナルの早期完成、既存施設の新みなと岸壁の有効活用およびターミナル機能の強化(ハード)
- 2) 佐世保港の長所を活かしたクルーズセールス(ソフト)
- 3) 「佐世保市国際戦略活動指針」のもと協議会を設置し、受け入れ体制の整備や観光PRを実施(ソフト)

佐世保港のクルーズセールスのターゲット

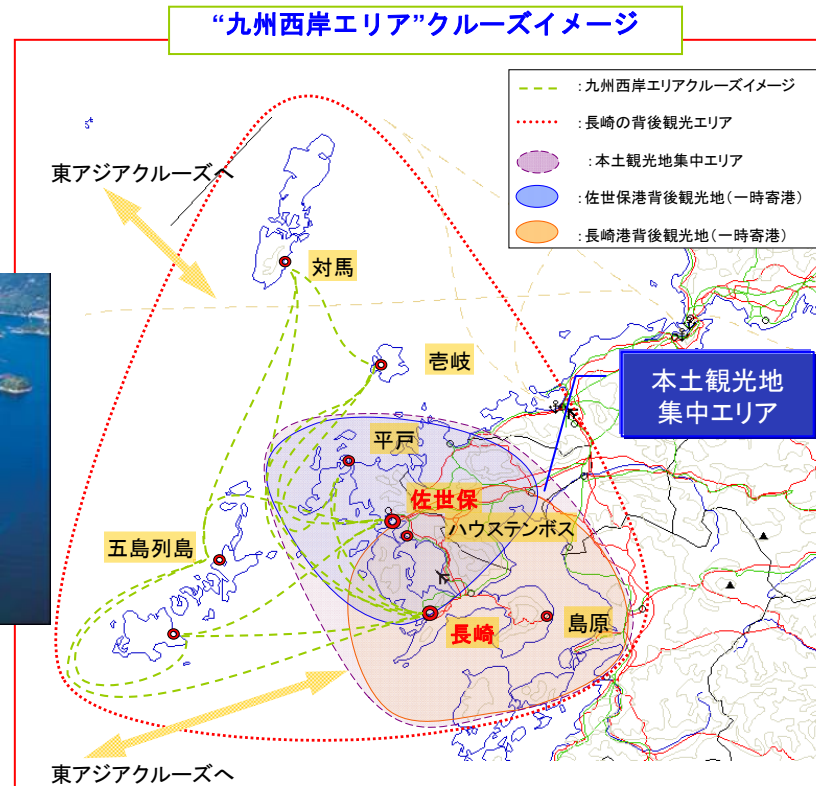
【絞り込み条件】

- ① 2014年以降に日本に寄港する可能性がある5万トン級までのクルーズ船
- ② 多彩な観光素材へのニーズがある市場
- ③ ハウステンボスへのMICE企画
- ④ リピーター向け国内クルーズ



一体的なクルーズ拠点 長崎港と佐世保港

◆背後観光圏を共有する「長崎港」・「佐世保港」を背後観光地のクルーズ拠点とし、周辺離島を含めた“九州西岸エリア”の周遊ルートを開発するなど、両港一体となって観光需要を拡大。



◆本土観光地集中エリアを補完しあう長崎港と佐世保港。

◆両港寄港により、多様な背後観光地を満喫。

◆周辺離島港との連携で、新たな周遊ルート開発やアドベンチャークルーズ等の誘致促進

◆“九州西岸エリア”でのクルーズ需要の拡大

既存施設の有効活用

長崎港

- 背後観光地クルーズの係留は、国際ターミナルビルがある松が枝国際観光船埠頭を使用する。
- ターミナルビルについては、CIQ体制が整った国際ターミナルビルを使用する。
- 複数のクルーズ船寄港時は常盤・出島岸壁を使用する。なお、当岸壁は大型クルーズ船に対応できるよう、岸壁の付属施設の設置等、改良工事を行うこととしている。



佐世保港

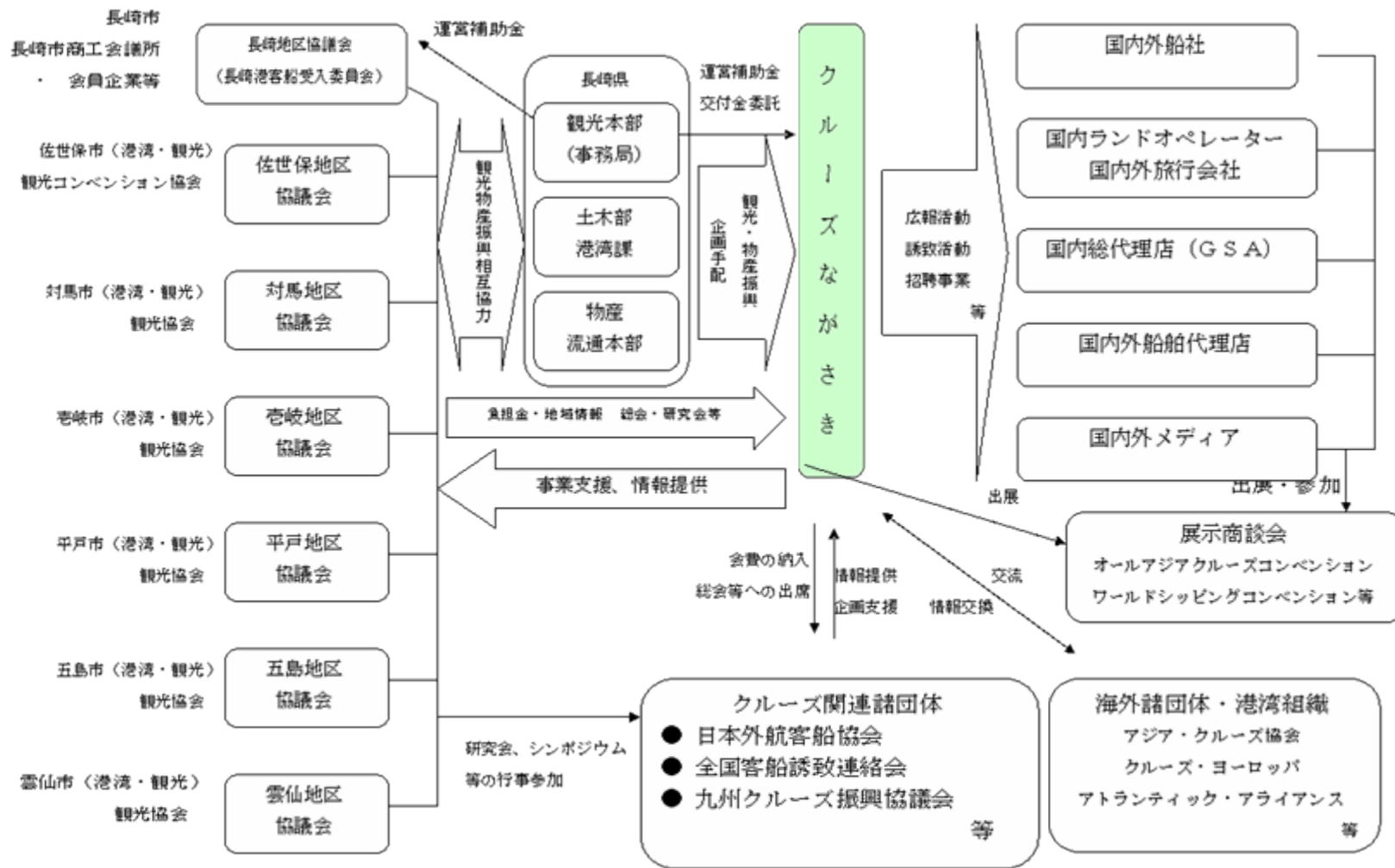
- 2014年には多目的国際ターミナルとして現在整備中である三浦岸壁(-10m)にて釜山との国際定期旅客船およびクルーズ船(5万トン級)に当岸壁を活用する。
- 三浦岸壁(-10m)と隣接した新みなと岸壁(-7.5m)は、3万トン級クルーズ船の接岸による利活用を図る。
- クルーズ船により寄港した観光客が、背後観光地を堪能できる時間をより多く提供できるよう、港での入国審査等の諸手続きや交通機関の乗換えなどの円滑化を図り、観光客の満足度を高めるため、「ターミナル機能」を整備する。



計画実現のための推進体制や行動計画

クルーズながさき(長崎県クルーズ振興協議会)を活用した積極的なポートセールス

観光地、港湾施設等の連携促進により、クルーズ客船の誘致拡大に向けた振興策の企画、受入態勢の充実、誘致活動の展開等に一体となって取り組み、クルーズを活用した観光・物産等の活性化を図る。



長崎港

- 「アジア・国際戦略」にて、県を挙げての取り組みを行っている
- 「クルーズながさき」を活用した積極的なポートセールスの推進
- 長期構想検討委員会設置と港湾計画改訂
 - ◆平成25年3月の港湾計画の改訂を目指し、本年、長崎港長期構想検討委員会を設置し、長崎港の進むべき方向性などについて検討を進める。
 - ◆議論の結果を基に、日本海側拠点港の形成に向けた機能強化のために必要な施策を港湾計画に位置づけ、早急に整備を進めていく。

長崎港における長期構想案



アジア・国際戦略

- 目的：長い交流の歴史によって培ってきた国際的友好・信頼関係を活かしながら、今後も高い経済成長が見込まれるアジアを中心に海外の活力を取り込み、本県の経済活性化を図る。
- 推進体制

本部	本部長：知事、副本部長：副知事
	本部長：関係部局長
	幹事会、ワーキングチーム



施策展開の視点

- 本県の活路（アジアの活力を取り込み）
- 本県が持つ優位性の復活（海外との窓口として時代の最先端を担ってきた歴史的優位性をアジアの時代に復活）
- 新アジア軸の構築（上海航路の復活により日中間の多面的な人・ものの交流が拡大し新アジア軸が構築、長崎がその日本のゲートウェイとして日中両国での広域的・面的な施策展開を目指す）

取組みテーマ

- 表記視点のもと、「海外からの観光客誘致」「県産品の輸出拡大」など7つの取組みテーマを策定



行動計画の策定（戦略プロジェクト）

- 取組みテーマの実現に向け、9つのプロジェクトを策定

 - ①上海航路復活
 - ②東アジア重点市場観光客誘致強化
 - ③クルーズ客船受入拡大
 - ④新規航空路線・国際チャーター便誘致
 - ⑤県産品の東アジア輸出拡大
 - ⑥対中国ビジネスサポート体制強化
 - ⑦孫文・梅屋庄吉と長崎
 - ⑧国際人材活用・育成
 - ⑨アジアの環境問題への貢献

計画実現のための推進体制や行動計画

佐世保港

- 東アジアの成長力を、本市へも取り込むため戦略的・体系的な取り組みをとりまとめた「佐世保市国際戦略活動指針」を策定
- 韓国・中国へのトップセールスを積極的に展開
- 本活動指針のもと「佐世保市外国人観光客ウエルカム協議会」を設置し、官民が連携して受入態勢の整備や観光PRを実施
- 「クルーズながさき」を活用した積極的なポートセールスの推進

佐世保市国際戦略活動指針の位置づけ

第6次総合計画基本 基本目標

政策

施策・事務事業

分野別計画等

ひと・まち育む”キラっ都”佐世保

あふれる魅力を
創出し体感で
きるまち

雇用を生み出す
力強い
産業のまち

快適な生活と交流
を支えるまち

都市経営の
取り組み

総合計画を支える
包括的な政策・施

観光を活かした
まちづくり

国際色豊かな
まちづくり

地域経済を支える地場
企業の振興

活力と賑わいの
あるみなとづく

経営の視点による
行政運営

総合計画を支える
包括的な政策

観光客誘致促進事業

観光基盤の整備

佐世保スタイル
観光の創出

国際理解促進事業

国際政策推進事業

特産品の販路
拡大事業

研修生受入事業

多目的国際ターミナル
整備事業

人材育成推進事業

ハウステンボス
再生支援事業

佐世保市観光
振興基本計画

↑ 整合 ↓

佐世保市国際
戦略活動指針

国際的観点からの都市
ビジョン、短絡的な活
動目標、体系的・戦略
的に取り組む活動につ
いての基本的考え方

↑ 整合 ↓

佐世保港
港湾計画

佐世保市外国人観光客ウエルカム協議会の設立趣意

